

1	<p><b>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</b></p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 公益財団法人東京YWCA社会福祉事業部として、キリスト教を基盤とした一人ひとりを大切にする考え方</li> <li>2) 学童クラブを第二の家庭として、子どもにとって安心安全な居場所とする</li> <li>3) 保護者が安心して子どもを預けられるように信頼関係を築く</li> <li>4) 職員が安心して働くことができ、仕事と生活が充実するような場とする</li> <li>5) 学校や地域と協力して子どもを見守り育むことができる関係性を築く</li> </ol>
2	<p><b>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</b></p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <p>小さき弱き存在としての子どもに手を差し伸べ、成長を支援することができる人。 保護者や同僚など、誰をも差別することなく、平等に対応できる人。 子どもの個性を尊重し、自主性を重んじ、子どもの意見に耳を傾けて行動できる人。 子どもが挑戦したり、感動したり、喜んだりすることに寄り添える大人。</p> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>常勤職員や資格を保有する非常勤職員に、学童クラブの役割を認識して、子どもの成長を支援することに努力してほしい。 全職員に、子どもに対応するのに役立つ能力や技術を身に着けるよう研鑽を積んでほしい。 常勤職員には、非常勤職員が能力を活かせるように役割を考えて仕事配分をし、また職員自身も成長するように見守ってほしい。</p>

調査対象

調査日現在、当事業所の利用登録者総数である70名を調査対象とした。回答者の年齢構成は、1年生14名、2年生10名、3年生14名、4年生12名、5年生3名であった。

調査方法

事業所と連名の依頼文を同封し、事業所から配布してもらうアンケート調査を実施した。アンケートは利用者に直接用紙を渡し、封をして提出してもらった。

利用者総数

70

共通評価項目による調査対象者数

アンケート	聞き取り	計
70	0	70
53	0	53
75.7	0.0	75.7

共通評価項目による調査の有効回答者数

利用者総数に対する回答者割合(%)

利用者調査全体のコメント

回答者の属性は、「利用者本人」が100.0%であった。  
 総合的な満足度に関する調査の結果は、対象者の75.4%が「よい」または「ややよい」と回答し、「どちらともいえない」が18.9%、「ややよくない」が1.9%、「無回答」が3.8%であり、高い満足度が得られている。  
 項目別では、＜生活について＞に関する5設問は2設問において、大変高い満足度であった。特に「学童での生活や遊びは楽しく興味が持てるか」では、90.5%の大変高い満足度が得られている。  
 ＜安心・快適性＞に関する4設問は1設問において、大変高い満足度であった。「けが・体調不良時の対応」では、94.3%の大変高い満足度が得られている。  
 ＜あなたを大切にしてくれているか＞に関する2設問は「気持ちを大切にしてくれるか」において、79.3%の高い満足度が得られている。  
 ＜嫌なことや、してほしいことについて＞では、「困ったり、してほしいこと」は、概ねの利用者が満足とする回答を得られているが、「職員以外への相談の案内」については、さらに高い満足度が望まれる結果であった。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答 非該当
1. 学童クラブでの活動は楽しく、興味の持てるものとなっているか	48	3	1	1
「はい」が90.5%、「どちらともいえない」が5.7%、「いいえ」が1.9%、「無回答・非該当」が1.9%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「アルティメットや野球が楽しい」、「友だちと遊んだり、一緒に宿題をやるのが楽しい」、「楽しい時もあればつまらない時もある」という声が聞かれた。				
2. 職員は話し相手や、相談相手になってくれるか	38	9	0	6
「はい」が71.7%、「どちらともいえない」が17.0%、「無回答・非該当」が11.3%であり、高い満足度であった。自由意見では、「大人の人たちは私が話したい時にしっかり目を見て聞いてくれています」、「楽しかったことや悲しかったことを聞いてくれる」、「聞いてくれない人もいます」という声が聞かれた。				
3. おやつ時間が楽しいひとときになっているか	41	9	3	0
「はい」が77.4%、「どちらともいえない」が17.0%、「いいえ」が5.6%であり、高い満足度であった。自由意見では、「おいしい」、「おやつもおいしいいっぱい友だちと話せる」、「甘いものがあまり好きではない」という声が聞かれた。				

4. 学童クラブでの約束ごと、活動内容について話し合う機会を設け、職員は意見を尊重してくれているか	44	3	0	6
「はい」が83.0%、「どちらともいえない」が5.7%、「無回答・非該当」が11.3%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「いろいろな意見を聞いてくれる」、「お誕生会のリーダーの時は話を聞いてくれた」、「そんなことはしたことない」という声が聞かれた。				
5. 職員から学童クラブの約束ごとの説明を受けているか	39	5	3	6
「はい」が73.6%、「どちらともいえない」が9.4%、「いいえ」が5.7%、「無回答・非該当」が11.3%であり、高い満足度であった。自由意見では、「ず～っとわかるまで教えてくれる」という声が聞かれた。				
6. 学童クラブ内の清掃、整理整頓は行き届いているか	32	12	4	5
「はい」が60.5%、「どちらともいえない」が22.6%、「いいえ」が7.5%、「無回答・非該当」が9.4%であった。自由意見では、「特に遊戯室がきれい」、「使いやすい」、「きれいな所もあり、少し汚い所もあります」という声が聞かれた。				
7. 職員の接遇・態度は適切か	42	4	1	6
「はい」が79.3%、「どちらともいえない」が7.5%、「いいえ」が1.9%、「無回答・非該当」が11.3%であり、高い満足度であった。自由意見では、「呼び方では「ちゃん」「さん」「くん」を使ってくれる」、「おもしろい」、「多分決めていきます」という声が聞かれた。				
8. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	50	3	0	0
「はい」が94.3%、「どちらともいえない」が5.7%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「急いで絆創膏を用意してくれたり、袋を用意してくれる」、「ほかの子が転んだりケガをしているときに助けているのを何回も見ます」、「みんな優しいです」という声が聞かれた。				
9. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	41	4	3	5
「はい」が77.4%、「どちらともいえない」が7.5%、「いいえ」が5.7%、「無回答・非該当」が9.4%であり、高い満足度であった。自由意見では、「すぐに止めてくれる」、「自分たちで解決できるような機会をつくってくれます」、「ケンカをしたことがない」という声が聞かれた。				
10. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	42	5	0	6
「はい」が79.3%、「どちらともいえない」が9.4%、「無回答・非該当」が11.3%であり、高い満足度であった。自由意見では、「もやもやした気持ちを聞いてくれる」という声が聞かれた。				

11. 子どものプライバシーは守られているか	37	9	2	5
「はい」が69.8%、「どちらともいえない」が17.0%、「いいえ」が3.8%、「無回答・非該当」が9.4%であった。自由意見では、「無理やり聞かれたらすぐ注意をしてくれる」、「ひみつの話をあまりしない」、「今はいない人ですが「いいえ」です」という声が聞かれた。				
12. 子どもの不満や要望は対応されているか	28	6	2	17
「はい」が52.8%、「どちらともいえない」が11.3%、「いいえ」が3.8%、「無回答・非該当」が32.1%であった。自由意見では、「嫌なことがあっても楽しくしてくれる」、「わからない」、「言ったことがない」という声が聞かれた。				
13. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	20	4	3	26
「はい」が37.7%、「どちらともいえない」が7.5%、「いいえ」が5.7%、「無回答・非該当」が49.1%であった。自由意見は特になかった。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリー1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリー1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 <b>7/7</b>
	<b>評価項目1</b> 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している <span style="float:right">評点(〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている <span style="float:right">〇非該当</span>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている <span style="float:right">〇非該当</span>
	<b>評価項目2</b> 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている <span style="float:right">評点(〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている <span style="float:right">〇非該当</span>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している <span style="float:right">〇非該当</span>
	<b>評価項目3</b> 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している <span style="float:right">評点(〇〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている <span style="float:right">〇非該当</span>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している <span style="float:right">〇非該当</span>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝える <span style="float:right">〇非該当</span>
	カテゴリー1の講評	
	理念や方針を職員と保護者に段階的に伝えている 理念や方針について、職員と保護者それぞれに応じた場面や媒体を用いて伝えている。職員に対しては、採用時に法人としての考え方を共有したうえで、日々の業務確認や振り返りの場を通じて、理念や方針に沿った関わりや育成の考え方を確認している。子どもたちを迎える前の時間帯には、第二の居場所としての役割を踏まえ、その日の過ごし方や子どものニーズを話し合い、育成に結び付けている。保護者には、入会時の保護者会で統括から直接説明を行い、おたより等を通じ日々の過ごし方が理念に基づいていることが伝わるよう工夫している。 前年度の振り返りを踏まえて年度目標を組み立てている 年度当初の目標設定では、前年度の取り組みや子どもたちの様子を振り返り、その内容を踏まえて計画を策定している。施設長は着任後、職員からこれまでの運営状況を丁寧に聞き取り、課題とともに良かった点を整理し、当該年度の目標を職員と共有している。目標の達成状況は、子どもたちの帰りの会での姿勢や参加の様子など、日常の変化を職員間で確認しながら把握している。これらを通じて得られた気づきを、その場の対応で終わらせず次の育成や関わりに生かす流れをつくり、計画と日々の実践を切り離さずに考える姿勢が示されている。 職員の意見を整理し運営判断につなげている 運営上の判断や改善は、職員の意見を基に話し合いを行い、内容に応じた整理と判断を行っている。日常の育成に関わる事項は、職員間で検討し完結させ、保護者対応など外部に関わる内容については、統括の参加を得て判断を明確にしている。常勤職員の間では課題が生じた際にその都度話し合いを行い、最終的な判断は施設長が担っている。また、非常勤職員からの気づきについても随時把握できる体制を整え、月例のミーティングには非常勤職員も参加して意見交換を行い、立場の異なる職員の声を集めて整理し、運営判断の根拠として共有している。	

カテゴリ-2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリ-1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリ-2の講評		
<p><b>子どもの声と環境変化を計画に反映している</b></p> <p>事業計画の作成にあたっては、学校や利用する子どもの状況に加え、子どもたちの声を把握しながら内容を検討している。子どもたちに対しては、やりたいことをアンケートで確認し、その結果を職員間で話し合って計画に取り入れている。気候や環境の変化にも目を向け、酷暑の影響が想定される場合には、真夏の行事を前倒しするなど、実際の状況に応じた調整を行っている。例年の枠組みを踏襲するだけでなく、子どもたちの関心や生活環境の変化を踏まえて内容を再構成しており、計画が現場の実情に沿ったものとなるよう見直しを重ねている。</p> <p><b>計画と日常運営を照らし合わせて進行管理している</b></p> <p>事業計画に記載した取り組みは、行事や日々の活動の実施状況を確認しながら進行を見ている。計画と実際の運営に差が生じたケースは現時点では見られていないが、追加事項や変更が生じた場合には、保護者に対してコドモンで配信し、内容を共有している。持ち物等に関する問い合わせがあった際には、その都度確認を行い、必要な対応につなげている。事業計画とイベント等の実施結果を見比べながら、保護者への情報提供も行っており、計画上の予定と日常運営の状況を照らし合わせて確認している。</p> <p><b>事業報告を次の計画づくりに結び付けている</b></p> <p>事業報告は、計画に沿った取り組み内容を振り返り、次年度の運営に生かす視点で整理している。前年度に雨天で中止となった行事については、体育館利用を検討するなど代替方法を考え、また、室内遊びが増えた状況を踏まえて、曜日を決めた外遊びの時間を設定するなど、具体的な見直しにつなげている。改善点については職員間で良かった点も含めて確認し、第二との合同イベントに関しては、毎月の合同会議で話し合いを行い情報を共有しており、実施結果を踏まえた検討内容が翌年度の計画へ反映されていることがうかがえる。</p>		

3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ-1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

### カテゴリ3の講評

#### 法令や倫理に関する判断を職員間で共有している

法令遵守や倫理に関する事項は、法人の規程や研修内容を踏まえ、施設長が把握した情報を職員に伝えている。市から配信される性暴力防止に関する情報についても内容を確認し、学童クラブの現場でどのように反映するかを具体的に話し合っている。子どもがプライベートゾーンに関わる話題や行動を示した場合には、その場で個人判断を行うのではなく、職員同士で対応を共有し、必要に応じて統括に相談する流れを取っている。日常業務の中で生じる迷いや判断の揺れを個人に委ねず、複数の視点で整理しながら対応を検討する体制を整えている。

#### 保護者に対して過ごし方が伝わる説明を行っている

利用者や保護者への説明や情報提供は、意見や問い合わせを受け止めたうえで、常勤職員の間で情報を共有し、事実確認を行ってから必要な内容を伝えている。日常の様子については、保護者会やお迎え時のやりとり、おたよりを通じて伝えており、おたよりには写真を掲載するなど、子どもたちの過ごし方が具体的に伝わる工夫をしている。結果報告にとどまらず、その場での子どもの姿や雰囲気が伝わるよう配慮しており、学童クラブでの生活を保護者がイメージできるよう整理している。過ごし方を可視化して家庭との理解の共有につなげている。

#### 学童クラブを生活の場として位置付けて関わっている

学校を学ぶ場、学童クラブを生活の場として捉え、子ども一人ひとりの状況に応じた関わりを行っている。家庭環境や性格の違いを踏まえ、子ども同士の関わりが苦手な場合には、職員が間に入りながら無理のない形で遊びにつなげている。仲間に入れない場面が生じた際にも、その気持ちを受け止めつつ双方の思いを尊重した声かけを行っている。学校との役割分担を意識しながら、放課後の生活時間を安心して過ごせるよう支援しており、生活の場としての役割を具体的な関わりの中で示している。日常の関係づくりを通じて、子どもの安心と居場所を支えている。

カテゴリ-4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリ-1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(00000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(0000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリ-4の講評		
<p><b>日常の安全確認を役割分担の中で行っている</b>  日常の安全管理においては、子どもの出欠や人数の確認を基本とし、第一学童、第二学童、あそびバの3施設が同時に活動する状況でも把握が行き届くよう工夫している。グラウンドで遊ぶ際には、第一と第二の間でトランシーバーを用いて状況を共有し、あそびバとも別チャンネルで連絡を取り合っている。緊急時には全体が同じチャンネルで情報共有できる体制を整えており、場が分かれていても状況を即時に伝え合えるようにしている。日常の動線や配置を前提に、確認作業を業務の流れの中に組み込み、特定の職員に負担が偏らないよう役割を整理している。</p> <p><b>防災訓練を通じて職員の認識をそろえている</b>  火災や地震、不審者対応を想定した訓練を年1回実施し、訓練後には子どもたちとも振り返りや確認を行っている。職員に対しては、訓練の場でその都度対応の確認を行い、終了後には良かった点や気づいた点を整理している。これらの内容は、布田第一学童クラブ、布田第二学童クラブ、あそびバの3施設で共有され、共通認識を持てるようにしている。各学童クラブやあそびバ間ではトランシーバーを用いて日々の安全確認も行って、訓練で確認した事項が日常の連携体制にも反映され、訓練を単独の行事で終わらせない取り組みとなっている。</p> <p><b>緊急時対応の判断基準を職員間で共有している</b>  緊急時の対応については、ケガの部位や状況に応じた判断の目安を職員間で共有している。首から上のケガについてはその場で常勤職員に伝え、施設長へつなぐことを共通認識としており、グラウンドでのケガについてはトランシーバーを用いて速やかに屋内の職員へ連絡している。訓練後の確認は当日の業務終了後に常勤職員で行い、その内容を月例ミーティングで第二や遊び場とも共有している。緊急時の判断が個人任せにならないよう、具体的な事例を基に確認を重ねており、基準を言葉でそろえながら対応の統一を図っている。</p>		

5 カテゴリー5		
5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリー1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

## カテゴリ-5の講評

### 日常の関わりを通じて職員の育成を図っている

職員の育成にあたっては、子どもと関わる仕事であることを前提に、日々の実践の中で必要な力を身につけていく考え方を共有している。子どもと無理なく遊べることや、安全に配慮しながら様子を見取ること、気づいた点を職員間で伝え合うことを重視している。個々の課題については一時的な対応にとどめず、最終的に目指す姿を意識しながら関わり方を確認している。職員側にコミュニケーションが苦手な面があった場合でも、法人が大人の福祉支援を行っている背景を踏まえ、支え合いながら働く経験そのものを育成の機会として位置付けている。

### 研修の機会を共有し学びを職員間で広げている

研修や学びの機会については、市からの研修案内を全職員に通知し、日程が合えば参加できるようにしている。参加は自主性を尊重しつつ、必要に応じて参加を促すことも行っている。研修後には、市へのアンケート提出や研修報告書の作成を行い、統括へ報告しているほか、月例ミーティングの場で内容を共有している。研修内容を個人の学びにとどめず、学童クラブの実践にどう生かせるかを話し合う機会として位置付けている。共有を通じて日常の関わりや業務改善につなげる流れを整えている。

### 自己評価を通じて体制上の課題を捉えている。

職員自己評価の結果については、日々の業務内容や子どもへの関わりは共有されている一方で、制度面や組織全体の仕組みに関する理解に差があることが整理されている。特に非常勤職員への共有が十分ではないという認識が示されており、勤務形態や役割の違いを踏まえた伝え方を検討する必要性を把握している。合議シートでは、自己評価の内容を基に体制上の課題を整理しようとしており、現場の実感を手がかりに組織の在り方を見直す視点が示されている。自己評価を形式的に終わらせず、改善につなげようとする姿勢が確認できる。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

前年度は、おやつや帰りの会といった生活の切り替え場面において、子どもたちが落ち着いて参加し、メリハリのある行動につなげることを重要課題として設定した。背景には、子どもたちの成長に伴い自主性が芽生える一方で、活動の切り替えが曖昧になりやすく、集団としての動きが揃いにくい場面が見られていたことがある。特に帰りの会では、参加姿勢にばらつきが生じやすく、次の行動に移るまでに時間を要する状況があった。職員間では、子どもの様子を具体的に共有し、注意や指示を増やすのではなく、生活の流れそのものを見直す必要があると話し合った。そこで、時計を見ることや音楽を合図にするなど、時間や行動の切り替えが子ども自身にも分かる仕組みを取り入れ、おやつや帰りの会へ自然に移行できる環境づくりに取り組んだ。

<p>目標の設定と 取り組み</p>	<p><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った</p> <p><input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった</p> <p><input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった</p>
<p>取り組みの検証</p>	<p><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った</p> <p><input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)</p> <p><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</p>
<p>検証結果の反映</p>	<p><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた</p> <p><input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない</p> <p><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</p>

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

取り組みの中では、「ナイスなコースで賞」といった表彰を取り入れ、切り替えや参加姿勢に目を向ける機会を設けた。これは特別な成果のみを評価するのではなく、日常の当たり前の行動を認める視点として位置付けられていた。メダルや表彰を行った際には、子どもたちが自主的に行動する姿が見られ、職員間でもその変化を具体的に確認している。振り返りの結果、集団単位での評価よりも、一人ひとりの頑張りに目を向ける方が子どもの意識につながると整理し、「良い姿勢で賞」へと内容を変更した。現在は個人を対象とした評価とすることで、注意されるから行うのではなく、自ら意識して行動する姿が増えている。職員は子どもの様子を継続的に話し合いながら、評価の在り方を調整し、生活場面での切り替えが日常行動として定着する過程を確認している。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

前年度は、高学年以上の子どもの多い状況を踏まえ、自主性を育て、安心して卒会を迎えられるよう支援することを重要課題として設定した。背景には、4年生が多い構成となったことで、「だらだらしてしまう」「面白くない」「窮屈を感じる」といった声や態度が見られていたことがある。高学年の子どもにとっては、年下の子どもとの関係の中で居心地の悪さを感じる場面もあり、学童クラブでの過ごし方に違和感を抱く様子が見受けられた。職員は子どもの言葉や態度を個別の問題として扱うのではなく、成長段階に伴う変化として整理し、保護者にも状況を丁寧に伝えたいという家庭での話し合いを支援した。また、学童クラブと「あそびバ」との交流を計画的に行い、その内容を早い段階で周知することで、次の生活段階を見据えた準備につなげていった。

目標の設定と取り組み	<ul style="list-style-type: none"><li><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った</li><li><input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった</li><li><input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった</li></ul>
取り組みの検証	<ul style="list-style-type: none"><li><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った</li><li><input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)</li><li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li></ul>
検証結果の反映	<ul style="list-style-type: none"><li><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた</li><li><input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない</li><li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li></ul>

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

高学年の子どもへの支援を進める中で、夏休み明け以降に4年生以上の退会が増加したが、職員はこれを否定的に捉えるのではなく、計画に沿った経過として整理している。学童クラブで感じていた窮屈さから離れ、放課後に友だちと約束をして遊ぶなど、次の生活段階へ進む準備が整った姿として受け止めている。今年度に向けては、3年生の段階から保護者へ早期に情報提供を行い、4年生になると学校生活や時間の使い方が変わることが丁寧に伝えている。学童クラブにいれば自然にできていたことを、自ら選択し行動できるようにするため、「あそびバ」との連携や体験を段階的に進める方針を共有している。子どもと保護者の理解を得ながら、成長の節目として卒会を位置付ける考え方が組織内で整理されている。

## Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリー6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 <b>4/4</b>
評価項目1 子どもや保護者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもや保護者が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や保育所、幼稚園等に提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 子どもや保護者の問い合わせや見学等の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー1の講評		
<p>見学や説明会を通じて学童クラブの生活や特徴を伝える情報提供に取り組んでいる</p> <p>見学は事前連絡があれば随時受け入れており、実際の育成室の雰囲気や子どもたちの過ごし方を直接確認できる機会を設けている。説明会では、年間行事や日常の過ごし方、育成方針等について伝え、学童での生活のイメージが持てるよう配慮している。上級生と下級生が関わりながら過ごす学童クラブの特徴についても紹介し、異年齢交流の中で子どもが成長していく環境について説明している。日常の活動については、誕生日会や季節行事、工作活動、遠足、地域行事への参加などのプログラムが計画されており、年間事業計画を通じて活動内容が整理されている。</p> <p>学童クラブの取り組みや活動の様子を広く発信していく仕組みづくりが期待される</p> <p>保護者に対しては、入会説明会や見学を通じて、クラブの生活の様子や運営方針について説明を行い、行事や活動を通じて、子どもたちが関係を育む環境づくりが行われている。一方で、学童クラブの取り組みや特徴を外部に向けて発信する方法については、保育園からの口コミなどによる紹介が中心となっており、HPや地図サービス等を活用した情報発信については今後の課題として認識されている。今後は、施設の特徴や日常の活動をより分かりやすく発信する仕組みを整えることにより、利用を検討する保護者に対してより広く情報が届くことが期待される。</p>		

サブカテゴリ-2	
2	サービスの開始・終了時の対応
サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 8/8	
<b>評価項目1</b> サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、理解を得ている <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を子どもや保護者の状況に応じて説明している <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、子どもや保護者の理解を得るようにしている <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、子どもや保護者の意向を確認し、記録化している <span style="float: right;">○非該当</span>
<b>評価項目2</b> サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇〇〇)</p>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの援助に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)の受入れに向けた配慮及び環境整備を行っている <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	5. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、生活の連続性に配慮した支援を行っている <span style="float: right;">○非該当</span>
サブカテゴリ-2の講評	
<b>子どもの状況を把握した受け入れ体制の整備に取り組んでいる</b> 入会説明会等を通じてクラブの生活の流れや利用方法、年間行事、育成方針などについて説明が行われている。説明会では、日常の過ごし方や行事の内容を具体的に伝え、子どもがどのような環境で放課後を過ごすのかイメージできるように配慮している。新入会児については、落ち着いて学童クラブの生活に慣れていけるよう、工作や座って取り組める活動を取り入れるなど、子どもの様子に応じた対応が行われている。新入生については保育園などの情報共有を行うなど、入会前の生活状況や子どもの特性を把握したうえで受け入れを行う体制が整えられている。	
<b>保護者との連携を通じて子どもの状況把握と支援につなげる取り組みに努めている</b> 日常の支援においては、子どもの様子や状況について職員間での打ち合わせや定例ミーティングを通じて情報共有が図られており、必要に応じて保護者とも連絡を取りながら状況の把握に努めている。また、加配が必要な子どもについては日々の記録を行い、子どもの状況を把握しながら支援につなげている。家庭との関係においては、お迎え時の会話や面談等を通じて子どもの様子を共有するなど、保護者とのコミュニケーションを大切にされた対応が行われている。	
<b>利用条件の説明や子どもの状況を継続的に把握・共有する仕組みの整備が期待される</b> 一方で、延長利用に関する費用など一部の利用条件については説明が十分でない面も見受けられる。また、加配児童以外の子どもについては日常的な記録が体系的に行われている状況ではなく、子ども一人ひとりの状況を継続的に整理・共有する仕組みについては今後の検討の余地がある。今後は、利用開始時の説明内容の整理や記録・共有の方法を整備していくことで、より一層安心して利用できる環境づくりにつながることを期待される。	

サブカテゴリー3

3 個別状況の記録と計画策定

サブカテゴリー毎の  
標準項目実施状況

10/10

評価項目1

子どもの視点に立った育成支援の目標に沿って育成支援の計画を作成している

評点(0000)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 育成支援の計画は、目標に沿って年間を見通して作成している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 育成支援の計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、援助の過程を踏まえて作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)に対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 育成支援の目標や計画について保護者の理解を得られるように説明している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目2

子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している

評点(000)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 育成支援の計画に沿った援助の内容について具体的に記録している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)については一人ひとりの子どもの状況や援助の内容を具体的に記録している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目3

子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点(000)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 育成支援の計画の内容や記録を、職員すべてが共有し、活用している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄り等話し合う機会を設けている	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリー3の講評

職員間の情報共有を通じて子どもの状況把握と支援の方向性の共有に取り組んでいる

子どもの状況把握や支援内容の共有について、日々の打ち合わせや月1回の定例ミーティングを通じて職員間で情報共有が図られている。日常の関わりの中で気づいた子どもの対応が必要な事柄については、職員同士で随時話し合いを行い、必要に応じてミーティングの場で確認するなど、複数の職員が関わりながら支援の方向性を共有する体制が取られている。また、第2学童クラブとの合同ミーティングも定期的に行われており、行事運営や子どもの過ごし方、日常の様子などについて情報交換を行うことで、施設間の連携を図りながら支援の充実につなげている。

入会前の情報共有や日常の関わりを通じて子どもの状況把握と安全確保に努めている

新入会児の受け入れにあたっては、保育園などの情報共有を行うなど、入会前の生活状況や子どもの特性を把握したうえで支援につなげている。子どもの様子や友人関係、生活のリズムなどを日常の関わりの中で把握し、必要に応じて職員間で情報共有を行いながら対応が検討されている。また、事故やトラブルの未然防止の観点からヒヤリハットの共有も行われており、子どもの安全確保や支援の質の向上につなげる取り組みが見られる。加配が必要な子どもについて日々の記録が行われており、子どもの状況や支援の経過を把握しながら対応が行われている。

子ども一人ひとりの状況を継続的に整理・共有する記録の仕組みづくりが期待される

記録は職員間で共有され、子どもの状態に応じた関わり方の調整に活用している。一方で、加配児童以外の子どもについては、日常的な記録や育成上の目標の整理が体系的に行われている状況ではなく、一人ひとりの状況を継続的に整理・共有する仕組みについては十分に整備されているとは言えない面も見受けられる。今後は、日常の関わりの中で把握した子どもの様子や課題、成長の状況などを記録として整理し、職員間で共有する方法を検討していくことにより、子ども一人ひとりの状況に応じた支援をより計画的に行う体制づくりにつなげることが期待される。

サブカテゴリ-5

5 プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重 サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5

評価項目1

子どものプライバシー保護を徹底している

評点(〇〇)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どものプライバシーに配慮して援助している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目2

サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 日常の援助の中で子ども一人ひとりを尊重している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮して援助している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 学童クラブ内の子ども間の暴力・いじめ等が行われないよう組織的に予防・再発防止を徹底している	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリ-5の講評

子どものプライバシーや個人情報に配慮した支援の実施に努めている

プライバシーや権利への配慮については、日常の支援の中で意識した対応が行われている。着替えの際には男女を分けて対応するなど、子どもの羞恥心に配慮した環境づくりが行われている。写真の取り扱いについては、事前に保護者から同意を得たうえで利用するなど、個人情報の取り扱いに配慮した運用がなされている。日常において、子どもの気持ちや意思を尊重する姿勢を大切に、子ども同士のトラブルが生じた場合には、状況を整理し、必要に応じて保護者と連絡を取りながら対応を検討するなど、子どもの思いや背景を踏まえた関わりが行われている。

子どもの意思や気持ちを尊重した関わりと安心して過ごせる環境づくりに取り組んでいる

事故やトラブルの未然防止の観点からヒヤリハットの共有を行うなど、子どもが安心して過ごせる環境づくりに向けた取り組みも行われている。プライバシーへの配慮や子どもの意思を尊重した対応を基本としながら支援が行うよう配慮している。今後も、子ども一人ひとりの気持ちや権利を大切にされた関わりを継続するとともに、職員間での共有や理解を深めることにより、より安心して過ごせる環境づくりにつながることが期待される。

サブカテゴリー6		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	4/5
6	事業所業務の標準化		
<b>評価項目1</b> 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	<input type="radio"/> 非該当	
<b>評価項目2</b> サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇●)	
評価	標準項目		
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や子ども・保護者等からの意見や提案を反映するようにしている	<input type="radio"/> 非該当	
<b>サブカテゴリー6の講評</b>			
<p>マニュアルの整備と職員間の情報共有を通じて安全な業務運営に努めている</p> <p>業務の安全確保や支援の質の維持に向けて、事故対応などに関するマニュアルが整備されており、職員はそれらを踏まえながら日常の支援を目指している。事故やトラブルが発生した場合には、職員間で状況を共有しながら対応が行われており、ヒヤリハット事例の共有などを通じて再発防止や安全確保に努めている。また、日常の業務については職員同士で随時確認や相談を行いながら対応しており、必要に応じてミーティングの場で情報共有を行うなど、職員間で支援の方向性を共有するよう配慮している。</p> <p>研修参加や職員同士の学び合いを通じて支援の質の向上に取り組んでいる</p> <p>職員の資質向上に向けては、市や法人が実施する研修への参加が行われており、学童保育に関する知識や支援方法について学ぶ機会が設けられている。こうした研修で得た内容については職員間で共有し、日常の支援に活かすよう努めている。また、日々の業務の中でも職員同士が意見交換を行いながら支援方法を確認するなど、互いに学び合う環境づくりが行われている。今後も、職員が安心して業務に取り組める環境づくりとともに、継続的な学びの機会を通じて支援の質の向上につながることを期待される。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

		サブカテゴリー4	
サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	29 / 29
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じて援助している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげること等ができるよう援助している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)が、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		<input type="radio"/> 非該当
評価項目1の講評			
<p>日常の共有を通して子ども一人ひとりの様子を把握し援助している</p> <p>子どもの様子については、午前は常勤職員、午後は非常勤を含めた全体で情報を共有し、日々の関わりの中で見られた様子を職員間で確認している。前日の出来事や子ども同士の関わりの様子なども含めて共有することで、子どもの状況を継続的に把握できるようにしている。トラブルやケガについては夕方の時間帯にも改めて共有し、事務所のホワイトボードへの記載や育成日誌への記録、口頭での伝達など複数の方法で情報を伝えている。必要な内容は保護者にもコドモンを通して知らせており、職員間と保護者の双方で状況を把握できるようにしている。</p> <p>異年齢で関わる遊びや生活を通して子ども同士の関係づくりを見守っている</p> <p>日常の生活や遊びの中では、異年齢で関わる機会が多く見られている。兄弟で通所している子どもも多く、自然と一緒に遊ぶ姿が見られているほか、大縄跳びなどの遊びでは声をかけ誘うようにしている。班活動では異年齢で構成されたグループを設定し、学期ごとに見直すなど関係が広がるよう工夫している。学校でも縦割り活動が行われていることから、その経験も踏まえながら子ども同士が関わる様子を見守っている。職員は遊びの場面で必要に応じて声をかけながら、子ども同士が関係をつくっていく過程を支えている。</p> <p>子ども同士のトラブルでは双方の思いを聞き落ち着いて話し合えるよう援助している</p> <p>子ども同士のトラブルが生じた場合には、双方の話を聞くことを基本とし、それぞれの思いを確認しながら対応している。職員がすぐに判断するのではなく、まずは子どもが自分の気持ちを伝えられるよう話を聞き、落ち着いてから声をかけることもある。学童クラブは学校とは異なる生活の場であることから、子どもが気持ちを発散できる場でもあることを踏まえ、状況を見守りながら関わるようにしており、子ども同士の話し合いを大切に考えている。感情が高ぶっている場面では落ち着く時間を設けるなど、その場の状況に応じて関わり方を工夫している。</p>			
2 評価項目2 日常の援助を通して、子ども一人ひとりの生活や遊びと集団全体の生活が豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 生活や遊びを通して日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している		<input type="radio"/> 非該当
評価項目2の講評			
<p>室内外の環境を活用し子どもが遊びや生活を選んで過ごせるよう工夫している</p> <p>1階では本や漫画を読む、宿題、お絵描きをするなど落ち着いて過ごす場所と、ゲームやけん玉、コマなどで遊ぶ場所、床に玩具を広げて遊ぶ場所などを使い分けながら生活している。本棚で空間を区切り、読書や静かな活動ができるスペースにはマットを敷くなど、過ごし方に応じて環境を整えている。玩具は人数や遊びの様子を見ながら使用するようし、順番や使い方について職員が声をかけている。室内では静かな活動と遊びの活動がそれぞれ行えるよう環境を整え、子どもが過ごし方を選びながら生活できるようにしている。</p> <p>校庭での外遊びを日常的に取り入れ子ども同士の関わりが広がるようにしている</p> <p>おやつ後は外遊びをすることが多く、広い校庭を活用しながら子どもが身体を動かして遊ぶ時間を設けている。校庭には「あそびバ」や第二学童の子どもも来ており、サッカーやドッチビーなどの遊びを通して多くの子どもと一緒に遊んでいる。虫探しなど自然に関わる遊びも見られ、子どもはそれぞれ興味のある遊びを見つけながら活動している。校庭は日常的に利用しており、子どもたちにとって楽しみな時間となっており、職員は遊びの様子を見守りながら安全面に配慮し、遊びの場面にに応じて関わっている。</p> <p>検定や大会を取り入れ子どもが目標を持って遊びに取り組めるようにしている</p> <p>遊びの中では、けん玉検定やコマ検定などの取り組みを行い、子どもが目標を持って取り組めるようにしている。けん玉では級の検定や「もしもしかめ」の検定を行い、コマでも検定を設けて段階的に挑戦できるようにしている。将棋などについては大会を企画し、希望する子どもが任意でエントリーする形で参加している。子どもは遊びを通して練習を重ねながら挑戦しており、遊びの中に目標や達成感が生まれている。日常の遊びの中に検定や大会を取り入れることで、子どもが意欲を持って活動に取り組む機会をつくっている。</p>			

3 評価項目3 日常の活動に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 子ども同士が意見を出し合いながら企画や活動をつくり上げていく機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目3の講評		
<p>季節行事を通して子どもが楽しみながら参加できる活動を実施している</p> <p>季節の行事として、夏休みの終わりには夏祭り(縁日)を実施している。ヨーヨーつりやスーパーボールすくい、ゲームなどのコーナーを設け、子どもがそれぞれの遊びを楽しめるようにしている。行事のテーマは職員間で話し合いながら決めており、活動の内容を工夫している。第一学童と第二学童が合同で行う行事もあり、子どもは日常とは異なる雰囲気の中で友だちと一緒に活動を楽しんでいる。季節の行事を通して日常生活とは異なる経験を取り入れながら、子どもが興味を持って参加できる機会を設けている。</p> <p>子どもが役割を持って行事に関わる機会を設けている</p> <p>行事の中では子どもが役割を担う機会を設け、夏祭りの縁日は3年生を中心にお店の運営を行い、ヨーヨーつりやゲームなどのコーナーを担当している。誕生日会ではゲームやおやつの内容について3年生の係と相談しながら進めている。進級お祝い会ではハンドベルや合唱、手話、ダンス、けん玉、フラフープなど複数の活動を設け、子どもが好きな活動を選んで参加できるようにしており、2月頃から準備や練習に取り組み、卒業式の日を発表している。学年に関わらず参加できる形とすることで、子どもが自分の興味に応じて行事に関わる機会を設けている。</p> <p>合同行事や遠足を通して子どもが楽しめる活動の機会をつくっている</p> <p>第一学童と第二学童が合同で実施する活動として、水鉄砲大会などを行っている。日常とは異なる活動を取り入れることで、子どもが身体を動かしながら楽しめる時間となっている。また遠足の機会も設けており、学校の振替休日にはバスで「こどもの国」へ出かけている。3月末には多摩川の河川敷へ歩いて出かけるお別れ遠足も行い、子どもはお弁当やおやつを持って友だちと一緒に過ごす時間を楽しんでいる。行事の予定や内容は毎月のおたよりやコドモンで保護者に伝えており、活動の様子を共有しながら実施している。</p>		
4 評価項目4 子どもの主体性を尊重し、学童クラブでの生活が楽しく、快適になるような取り組みを行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自ら進んで学童クラブに通い続けられるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 共通する生活時間の区切りをつくり、子ども自身が見通しを持って主体的に過ごせるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが安心して活動できるよう、状況に応じて室内の環境を工夫している	○非該当
●あり ○なし	4. 【「新・放課後子ども総合プラン」「都型学童クラブ実施要綱」に基づき放課後子供教室と一体型で実施、または連携して実施する場合】 子どもが放課後子供教室の活動プログラムに参加しやすいように連携を取りながら援助している	○非該当
評価項目4の講評		
<p>生活の流れを整え子どもが見通しを持って過ごせるよう工夫している</p> <p>生活の流れを整えながら子どもが見通しを持って過ごせるよう、遊びからおやつ、帰りの会などの場面の切り替えでは音楽を流し、子どもが自ら次の行動に移れるようにしている。職員がその都度指示を出すのではなく、音楽が流れることを合図として子どもが自分で片付けや移動を行う流れをつくっている。帰りの会ではコースごとの人数確認や職員からの連絡、ゲームや発表などを行っており、当番の子どもが進行を担う場面もある。日々の生活の中で活動の流れが分かるようにしながら、子どもが生活のリズムを意識して過ごせるようにしている。</p> <p>子どもが役割や活動に参加しながら生活をつくる機会を設けている</p> <p>生活の中では子どもが役割を持って活動に関わる機会を設けている。班活動を取り入れ、お弁当やおやつ時間を班で過ごすほか、おやつ後には班ごとに掃除を行っている。ほうきで床を掃いたり、ごみを分別してごみ箱に入れたりするなど、日常生活に必要な活動を子ども自身がやっている。また帰りの会では姿勢よく座っている子どもを確認して「良い姿勢で賞」を発表する取り組みも行っており、子どもが生活の場面を意識する機会となっている。取り組みを通して、子どもが楽しく生活習慣を学べるよう工夫をしている。</p> <p>新入会児が安心して生活を始められるよう環境や関わりを工夫している</p> <p>新1年生の受け入れにあたっては、事前に保育園から児童状況書を受け取り、子どもの様子について把握したうえで職員間で共有している。入学式前の期間にはお弁当を持参して過ごし、子どもの様子を見ながら1年生だけで過ごす時間を設けるなど生活に慣れるための工夫をしている。学童のスペースや遊びについて、校庭の使い方を案内するほか、4月上旬にはお祝い会を行い、上級生が遊びの紹介や自己紹介をしている。来所時には職員がコースごとに案内し、1～2週間を目安に子どもが生活に慣れるよう丁寧に関わっている。</p>		

5 評価項目5 子どもが日々の生活を円滑に過ごせるよう、学校等と密に連携を図っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが学童クラブでの生活を円滑に過ごせるよう、学校との情報交換や情報共有等密に連携して援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 不登校など課題を抱える子どもについて、学校と密に情報共有しながら子どもの気持ちに配慮して援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)や養育環境で特に配慮が必要な子どもの援助にあたっては、関係機関(教育機関、福祉関係機関、医療機関等)と連携をとって行っている	○非該当

評価項目5の講評

**小学校と日常的に情報交換を行い子どもの様子を共有している**

小学校との連携では、副校長を窓口として日常的に情報交換を行っている。職員が学校を訪問した際や、担任教諭が学童を訪れる機会などに子どもの様子について話をすることがあり、電話でのやり取りも行っている。学校の職員が忘れ物を届けに来ることもあり、その際に子どもの様子について話をする機会もある。こうした日常的なやり取りを通して、学校生活や放課後の様子について情報を共有している。学校と学童クラブは子どもが生活する場として連続していることから、必要に応じて状況を伝え合いながら関わっている。

**小学校と連携しながら配慮が必要な子どもの状況を共有している**

小学校との連携では、副校長を窓口として情報交換を行っている。学童の職員が学校を訪問した際や、担任教諭が学童を訪れる機会、電話でのやり取りなどを通して、子どもの様子について話をする機会を設けている。忘れ物を届けに来る場面などでも状況を共有することがあり、学校生活や放課後の様子について必要な情報を伝え合っている。子どもに関する気になる様子が見られた場合には、その内容を学校に伝えるなど状況を共有しながら関わることを大切にしており、子どもが安心して生活できるよう連携して見守っている。

**関係機関とつながりながら子どもの状況に応じた支援につなげている**

子どもの様子や保護者との会話の中で気になることがある場合には、子ども発達支援センター「すこやか」などの関係機関につなぐこともある。不登校などの状況が見られる場合には、孤立につながることがないように保護者へ相談先として案内している。関係機関につながった後の支援内容については直接関わる立場ではないため詳細は共有されない場合もあるが、必要に応じて相談先を紹介することで支援につながるきっかけをつくっている。相談内容を踏まえながら、関係機関と連携し子どもの状況に応じた支援につながるよう関わっている。

6 評価項目6 子どもがおやつを楽しめるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いておやつをとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの来所時間や夕食の時間帯等を考慮して提供時間や内容、量等に工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの食物アレルギーの状況に応じたおやつを提供している	○非該当

評価項目6の講評

**落ち着いた環境の中でおやつをとれるよう提供方法を工夫している**

おやつは主に2階で準備し、子どもの人数を確認しながら3種類程度を用意している。基本は午後3時に提供しているが、下校時間の違いに合わせて1・2年生が早く帰ってくる日などは時間帯を分けて提供することもある。テーブルで着席して食べる形としており、落ち着いておやつをとれるようにしている。片付けの場面では、椅子を元の位置に戻すなど子どもができる範囲で役割を担うようにしている。職員は日常の提供方法や確認手順を通して、子どもが楽しく、落ち着いて食べられるよう環境を整えている。

**アレルギーへの配慮を行い安全におやつを提供している**

おやつの提供にあたっては、アレルギーへの配慮を行いながら準備をしている。提供する食品は記録表に記入し、内容や期限などを確認したうえでダブルチェックを行っている。提供内容や種類については自治体の方針にも沿った対応としている。アレルギーのある子どもについては持ち込みのおやつを別の場所で管理し、提供の際には内容を確認している。またエビペンを所持している子どもについても状況を把握しながら対応している。食事の場面では同じ席で過ごしているが、誤食につながらないように片付けの範囲を調整するなどの配慮をしている。

**行事や子どもの希望を取り入れながらおやつを楽しめるようにしている**

日常のおやつと行事のおやつを組み合わせながら、子どもがおやつの時間を楽しめるよう工夫している。月に1度の特別なおやつでは、子どもに人気のあるアイスや、肉まんやコロッケ、おでんなどを提供することもある。ピザやドーナツ、たい焼きなどを用意することもあり、子どもが楽しみにする時間となっている。行事の際には内容を工夫しており、節分ではチュロスや恵方巻に見立てて食べるなど季節を感じられる取り組みも行っている。クリスマスにはロールケーキにデコレーションをするなど、子どもが楽しみながら参加できる形としている。

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的ケアが必要な子ども等に、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>日常生活の中で健康や安全に関する意識を持てるよう声をかけている</p> <p>子どもが安全に過ごせるよう、職員が場面に応じて声をかけており、帰りの会では走らないことや危険につながる行動について伝え、子どもが生活の中で意識できるようにしている。ケガについては小さなものであっても保護者に伝え、子どもの様子を共有している。手洗いやうがいについても日常的に声をかけ、おやつの前には行うことが習慣となるよう関わっており、生活の中で繰り返し伝えることで、子どもが健康や安全に関する行動を意識できるようにしている。職員は日々の関わりを通して子どもの様子を確認しながら、安心して過ごせるよう見守っている。</p> <p>感染症対策や体調の変化に応じて保護者と連携し対応している</p> <p>感染症への対応として、手洗いやうがい、室内の換気を行いながら環境を整えている。学級閉鎖があった場合には家庭にも声をかけ、家族の状況などについても確認している。子どもの体調については日常の様子を見ながら確認し、普段と様子が異なる場合には検温を行い、微熱であっても体調の変化が見られる場合には保護者へ連絡し迎えを依頼することもある。学校での状況についても必要に応じて確認しながら、その時々状況に応じて対応し、子どもの体調や生活の様子を見守りながら、保護者と連携し安全に過ごせるよう関わっている。</p>		
8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの様子や発達の状況について、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの出欠席の確認など、保護者と協力して安全を確保する取り組みを行っている	○非該当
評価項目8の講評		
<p>日常のコミュニケーションやICTを活用した保護者との情報共有に努めている</p> <p>保護者との連携については、日常のコミュニケーションを大切にされた対応が行われている。お迎え時には、子どものその日の様子や学童クラブでの出来事を保護者に伝えるなど、日々のやり取りを通じて家庭との情報共有が図られている。また、必要に応じて面談を行うなど、保護者と子どもの状況について話し合う機会も設けられている。さらに、連絡アプリを活用し、行事やお知らせなどの情報を保護者に配信するなど、保護者が学童クラブの活動状況を把握できるよう取り組んでいる。</p> <p>保護者会の開催や家庭への配慮を通じて安心して利用できる関係づくりに取り組んでいる</p> <p>保護者会は年2回実施されており、年間行事や育成方針、夏休みの利用方法などについて説明が行われている。保護者会では、子どもたちの活動の様子を写真のライドショーで紹介するなど、日常の活動の様子を具体的に伝える工夫も見られる。また、家庭の事情に応じて利用日数や利用時間を調整するなど、各家庭の状況に配慮した柔軟な対応も行われている。今後も、保護者が安心して学童クラブを利用できるよう、家庭との情報共有や相談しやすい関係づくりに継続していくことが期待される。</p>		

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 学童クラブの行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが地域の子どもや大人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p>他施設との連携による交流活動を通じて子どもの社会性を育む取り組みに努めている</p> <p>第2学童クラブや放課後子ども教室との連携による共同プログラムが実施されており、交流会やスポーツ大会(ドッジビー大会)、レクリエーション活動、防犯・防災訓練などを通じて、複数の施設の子どもが交流できる機会が設けられている。こうした取り組みは、普段関わる機会の少ない子ども同士が交流する機会となるとともに、集団活動の経験を広げる場となっている。季節行事や地域行事への参加も行われており、夏まつりや地域イベントへの関わりを通じて、子どもが地域社会の一員として活動に参加する機会が設けられている。</p> <p>地域資源や関係機関との連携を活かした交流活動のさらなる充実が期待される</p> <p>児童館まつりではゲームコーナーの運営を担当するなど、子どもが行事の手伝いに関わる機会もあり、地域の中で役割を持つ経験につながっている。さらに、バイオネストづくりなどの自然環境に関する活動も行われており、地域の自然や環境に触れる体験の機会も設けられている。地域施設やほかの学童クラブと連携した行事や交流活動を通じて、子どもが地域との関わりの中で多様な体験を得られる環境づくりが行われている。今後も地域の資源や関係機関との連携を活かしながら、子どもの社会性や協調性を育む活動の充実につながることを期待される。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	1-1-1	事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している
タイトル①	子どもの成長段階を見据えた関わりと運営上の工夫に取り組んでいる	
内容①	子どもたちの成長や学年構成の変化を踏まえ、生活場面の切り替えや参加姿勢、高学年の子どもの過ごし方について組織として工夫を重ねている。日常の行動を評価の対象とする取り組みや、個々の頑張りに向け関わりを通じて、子どもが自ら考え行動する姿を支えている。また、卒会を見据えた支援についても、子どもと保護者に早期に情報を伝えながら段階的に関わりを進めており、成長の節目を意識した運営を行っている。理念や目標を具体の実践に落とし込み、成長過程を支える取り組みを積み重ねている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-2	日常の援助を通して、子ども一人ひとりの生活や遊びと集団全体の生活が豊かに展開されるよう工夫している
タイトル②	行事や環境づくりを通して子どもが楽しく過ごせる工夫を行っている	
内容②	夏祭りや水鉄砲大会などの行事を取り入れ、子どもが楽しみながら参加できる活動を行っている。こうした行事は法人として大切にしている取り組みでもあり、子どもが友だちと一緒に楽しく過ごせる時間となっている。また日常生活では、本棚で空間を区切り、マットを敷いた読書スペースを設けるなど、落ち着いて過ごせる環境づくりを行っている。漫画や本を読む場所と遊びのスペースを分けることで、子どもが自分の過ごし方を選びながら生活できるようにしている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-9	地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている
タイトル③	他施設や地域との連携を通じて子どもの社会性や協調性を育む交流活動に取り組んでいる	
内容③	第2学童クラブや放課後子ども教室との連携により、共同プログラムを実施しており、普段関わる機会の少ない子ども同士が交流する機会を設けている。こうした取り組みは、子どもの社会性や協調性を育むとともに、集団活動を通じた経験の幅を広げる機会となっている。また、夏まつりや地域イベントへの参加、児童館まつりでの運営協力など、地域行事への関わりを通じて地域社会の一員として活動に参加する機会づくりも行われている。パイオネストづくりなど自然環境に関する活動にも取り組んでおり、地域の自然や環境に触れる体験の機会を設けている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	異年齢の関わりを通して子ども同士が育ち合う関係づくりを大切にしている
	内容	上級生と下級生が日常的に関わりながら過ごす環境が大切にされている。日常生活の中で自然に異年齢の関わりが生まれることで、上級生が下級生を気にかける姿や、年下の子どもが年上の子どもから学ぶ姿が見られるなど、子ども同士の関係づくりを通じた育ちが促されている。保護者との関係は、お迎え時の会話を中心とした日常的なコミュニケーションを大切に、子どもの様子や学童クラブでの出来事を直接伝えるなど、家庭との情報共有が日常的に行われており、保護者が安心して子どもを預けることができる関係づくりに努めている。
2	タイトル	子どもが安心して過ごせる放課後の生活の場づくりを大切にしている
	内容	学校生活の中で子どもが日々頑張っていることを踏まえ、学童クラブでは「おかえり」と迎え入れ、安心して過ごせる時間となることを大切にしている。子どもががつろぎながら友だちや職員と時間を共有できる生活の場となるよう、子どもに何かを教えることを目的とするのではなく、一緒に過ごす時間の中で子どもにとって前向きな経験となるよう関わることを大切にしている。また保護者にとっても安心して子どもを預けられる場となるよう、子どもの様子を見守りながら職員同士で思いを共有し対応している。
3	タイトル	子どもの生活実態に即して運営判断を積み重ねている
	内容	日々の育成や行事運営において、子どもたちの様子や変化を職員間で丁寧に関わり共有し、その内容を踏まえて判断や工夫を重ねている。帰りの会や生活場面での姿勢、遊びの広がりなど、日常の小さな変化を具体的に捉えながら関わりを調整しており、運営上の判断が現場の実感から切り離されていない。常勤・非常勤を問わず気づきを受け止め、話し合いを通じて方向性をそろえる姿勢が見られ、子ども一人ひとりの安心や成長を軸にした運営が組織として継続されている。生活場面の切り替えや高学年支援など、課題を具体化し実践につなげている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	子どもの状況を継続的に共有する記録の仕組みづくりと情報発信の充実が期待される
	内容	子どもの状況把握や支援の共有については、日々の打ち合わせやミーティングを通じて職員間で情報共有が行われているが、日常的な記録は体系的に整理することが望まれる。子ども一人ひとりの様子や成長の状況を継続的に把握し、職員間で共有する仕組みの整備が期待される。また、学童クラブの取り組みや特徴を外部に向けて発信する方法については、保育園などからの紹介が中心となっている状況がうかがえる。今後は、SNSや情報発信ツールの活用なども含め、学童クラブの活動や特徴を分かりやすく発信する仕組みづくりが期待される。
2	タイトル	生活の切り替えを子どもが主体的に行える環境づくりに継続的に取り組んでいる
	内容	帰りの会やおやつ時間など生活の切り替えの場面では、子どもが落ち着いて行動できるよう職員間で話し合いながら工夫を重ねている。声かけのみで行動を促すのではなく、子どもが自分で気づいて動けるよう音楽を合図として取り入れたことで、現在では音楽が流れると片付けや移動を始める様子が見られ、生活の流れが子どもにも共有されている。流す音楽についても子どもの意見を取り入れることもあり、生活中に子どもの声を反映した取り組みとして継続している。
3	タイトル	組織としての考え方を共有する機会づくりが課題となっている
	内容	日常業務や育成に関する情報共有は行われているものの、運営全体を支える考え方や制度面の整理については、職員の受け止め方に差が見られる。特に非常勤職員にとっては、日々の対応は理解できていても、その背景となる方針や判断基準が十分に伝わっていない場面があると認識されている。個々の判断が組織の方向性とより強く結び付くために、勤務形態や役割の違いを踏まえた伝達方法を整理し、制度や運営の全体像を共有する機会を設けることが次の課題である。